

平成21年度 第1回

杉並区インターネット区民アンケート
集計結果報告書

「区民による行政評価」について



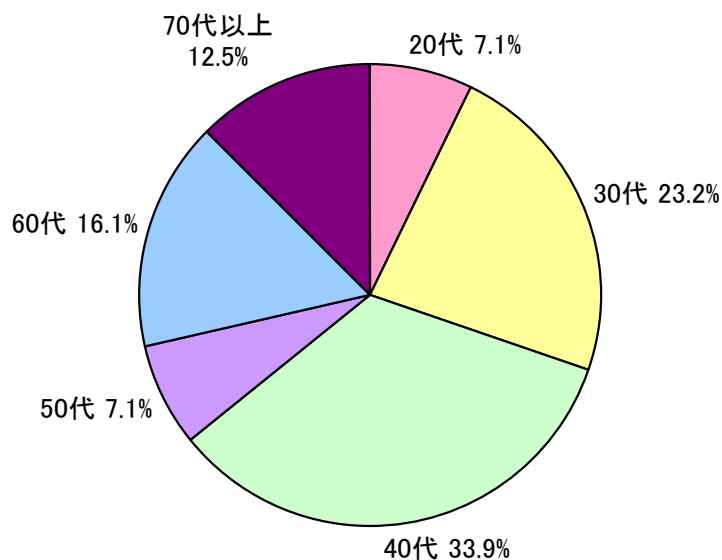
平成21年8月実施

杉並区政策経営部区長室区政相談課

調査の概要

- 1 調査の目的 区民の方々が区の事業に対してどのような評価をしているのかを把握し、今後の区事業の見直し、改善に活かすために実施しました。
- 2 調査の内容 「区民による行政評価」について
- 3 調査期間 平成21年8月17日～平成21年8月31日
- 4 回答者数 56人
- 5 回答者構成 単位:人

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
男性	0	1	7	13	2	7	6	36
女性	0	3	6	6	2	2	1	20
合計	0	4	13	19	4	9	7	56



6 集計・分析にあたって

- (1) 各項の初めにあるNは、回答者数を表している。
- (2) 百分率は、小数第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。
- (3) その他の意見と設問10の自由意見は、要約を掲載しました。

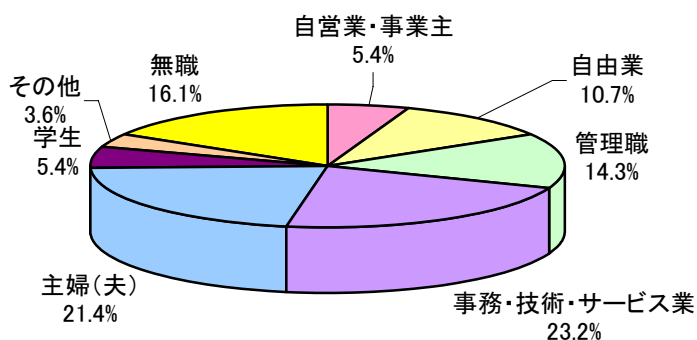
区民による行政評価について

設問1及び2は調査の概要に掲載済み

設問3 あなたの職業をお答えください。

N = 56

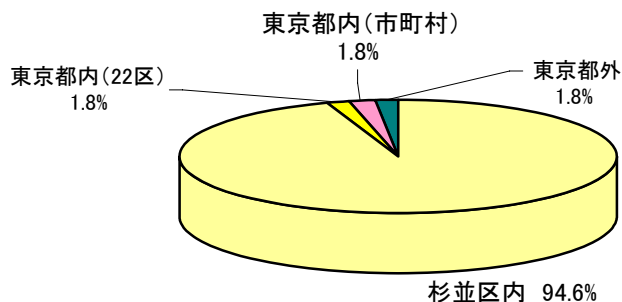
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 自営業・事業主	3	5.4%	男性	3		1	1	1
			女性	0				
② 自由業	6	10.7%	男性	4		3		1
			女性	2		1		1
③ 管理職	8	14.3%	男性	8		5	3	
			女性	0				
④ 事務・技術・サービス業	13	23.2%	男性	8		8		
			女性	5		4	1	
⑤ 主婦(夫)	12	21.4%	男性	0				
			女性	12	2	7	3	
⑥ 学生	3	5.4%	男性	2	1	1		
			女性	1	1			
⑦ その他	2	3.6%	男性	2		1	1	
			女性	0				
⑧ 無職	9	16.1%	男性	9		1	4	4
			女性	0				



設問4 あなたはどちらにお住まいですか。

N = 56

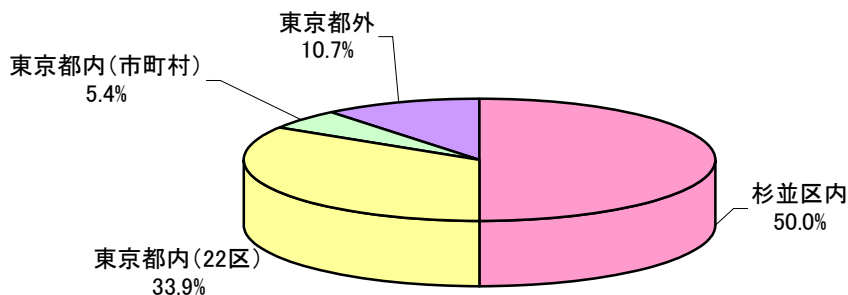
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 杉並区内	53	94.6%	男性	33	1	18	9	5
			女性	20	3	12	4	1
② 東京都内(22区)	1	1.8%	男性	1				1
			女性	0				
③ 東京都内(市町村)	1	1.8%	男性	1		1		
			女性	0				
④ 東京都外	1	1.8%	男性	1		1		
			女性	0				



設問5 あなたのお勤め先や学校は次のどれですか。

N = 56

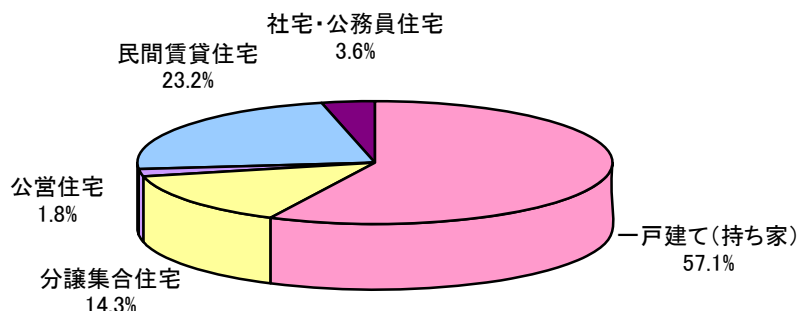
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 杉並区内	28	50.0%	男性	16		6	6	4
			女性	12	1	6	4	1
② 東京都内(22区)	19	33.9%	男性	12		8	2	2
			女性	7	1	6		
③ 東京都内(市町村)	3	5.4%	男性	3	1	2		
			女性	0				
④ 東京都外	6	10.7%	男性	5		4	1	
			女性	1	1			



設問6 あなたのお住まいは次のどれですか。

N = 56

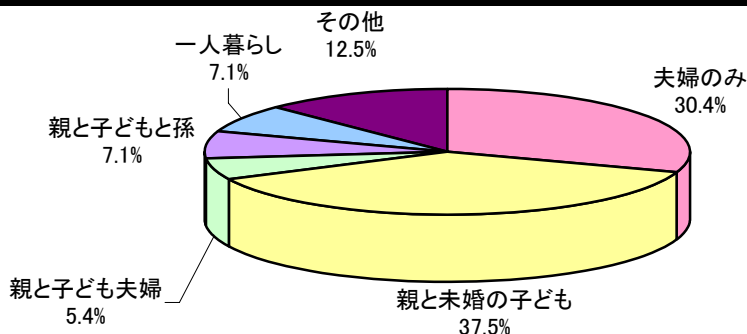
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 一戸建て(持ち家)	32	57.1%	男性	20		7	9	4
			女性	12	1	7	3	1
② 分譲集合住宅	8	14.3%	男性	5		4		1
			女性	3		3		
③ 一戸建て(借家)	0	0.0%	男性	0				
			女性	0				
④ 公営住宅	1	1.8%	男性	1				1
			女性	0				
⑤ 民間賃貸住宅	13	23.2%	男性	8	1	7		
			女性	5	2	2	1	
⑥ 社宅・公務員住宅	2	3.6%	男性	2		2		
			女性	0				



設問7 あなたのお宅の家族構成は次のどれですか。

N = 56

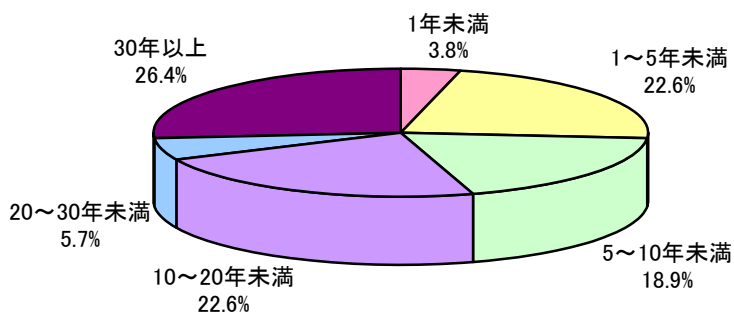
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 夫婦のみ	17	30.4%	男性	11		2	4	5
			女性	6	2	1	3	
② 親と未婚の子ども	21	37.5%	男性	13	1	10	2	
			女性	8	1	6	1	
③ 親と子ども夫婦	3	5.4%	男性	2		2		
			女性	1		1		
④ 親と子どもと孫	4	7.1%	男性	2		1	1	
			女性	2		2		
⑤ 一人暮らし	4	7.1%	男性	2		2		
			女性	2		1		1
⑥ その他	7	12.5%	男性	6		3	2	1
			女性	1		1		



設問8 杉並区にお住まいの方にお尋ねします。杉並区にお住まいになって何年ですか。

N = 53

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 1年未満	2	3.8%	男性	1		1		
			女性	1		1		
② 1～5年未満	12	22.6%	男性	5		5		
			女性	7	2	4	1	
③ 5～10年未満	10	18.9%	男性	7		5	1	1
			女性	3		2	1	
④ 10～20年未満	12	22.6%	男性	8	1	4	2	1
			女性	4		3	1	
⑤ 20～30年未満	3	5.7%	男性	1			1	
			女性	2	1	1		
⑥ 30年以上	14	26.4%	男性	11		3	5	3
			女性	3		1	1	1



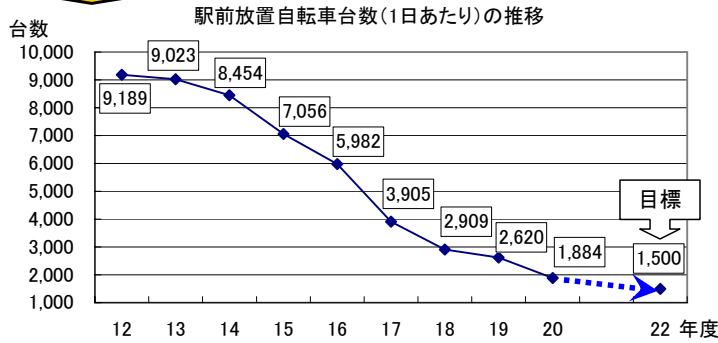
No. 1 自転車問題の解決

目的と概要

安全で安心な生活環境を実現するため、駅周辺の放置自転車の問題に取り組んでいます。自転車は手軽で身近な乗り物であり、環境にやさしい移動手段として認められています。自転車利用を促進するためにも、自転車駐車を整備し、放置自転車の解消を目指しています。区では、放置自転車台数について、平成15年度の7,056台から70%削減し、平成22年度までに2,100台以下とすることを目指し、各施策に取り組んできました。その結果、放置自転車台数は、平成20年度に1,884台となり目標を達成しました。そこで、改めて平成22年度までに1,500台以下とする数値目標を掲げます。

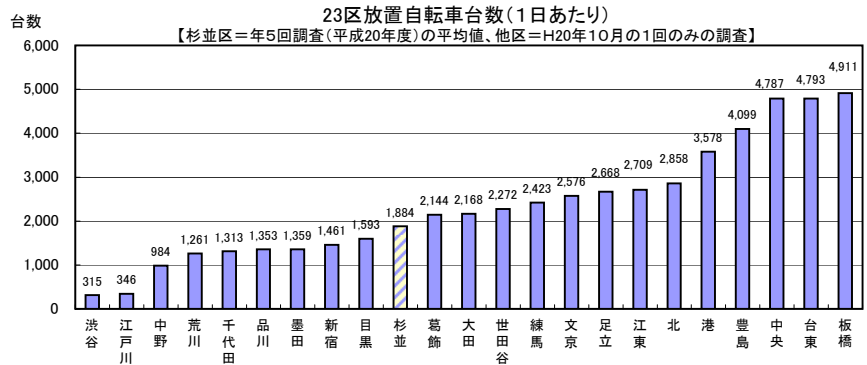
- 1 目標
- 2 成果

駅前放置自転車を
平成22年度に1,500台に減少させます



駅前放置自転車台数とは、区内各駅の放置禁止区域内に放置された台数で、年5回調査の平均値です。平成20年度は、前年度の2,620台から1,884台へ大幅に減少しました。これは、区内全域で、放置防止指導から撤去・返還業務まで一貫した放置防止対策の強化を図ったこと、および、区内の17駅で活動する自転車放置防止協力員等による「放置防止キャンペーン」などの啓発活動の効果といえます。一方で、午後から夕方にかけて、買い物客の放置自転車が目立つようになっており、買い物客の放置自転車対策が課題になってきています。

23区の放置自転車台数をみると、杉並区は少ない方から数えて10番目で、中位に位置しています。



3 かかった経費

20年度にこの事業にかかった費用は、人件費と事業費を合わせて、約16億2千万円でした。大きな支出としては、自転車駐車場の運営経費として6億8千万円、自転車駐車場整備経費として6億1千万円、自転車の放置防止啓発や放置自転車の撤去・返還・処分などに2億8千万円です。また収入としては、自転車駐車場使用料が6億5千万円、撤去手数料が1億円、撤去自転車の売却代金が1千9百万円など、合計で約7億9千万円となりました。この結果、この事業にかかる区民1人あたりの経費は3,016円ですが、使用料・手数料等の収入を差し引いた後の、実質負担額では区民1人あたり1,543円となっています。

区民一人あたりの額

この事業 3,016円
区の全ての事業 41万2千円

4 事業

<20年度に実施した主な事業>

番号	事業名(活動指標)	数量	内容
1	自転車駐車場等を整備しました	3ヶ所	207台規模の西荻窪北自転車駐車場を新規開設しました。東高円寺自転車駐車場を改築し、950台規模の自転車駐車場を整備しました。永福自転車集積所用地を購入しました。
2	放置自転車を撤去しました	52,089台	区内の各駅付近で、延べ2,557回撤去を行いました。
3	自転車放置防止キャンペーンを実施しました	5日間	自転車利用者を対象に、地域の方たちとともに、協力を呼びかけました。

5 自己評価

<これまでの取組>

<今後の方向性> 【拡充】

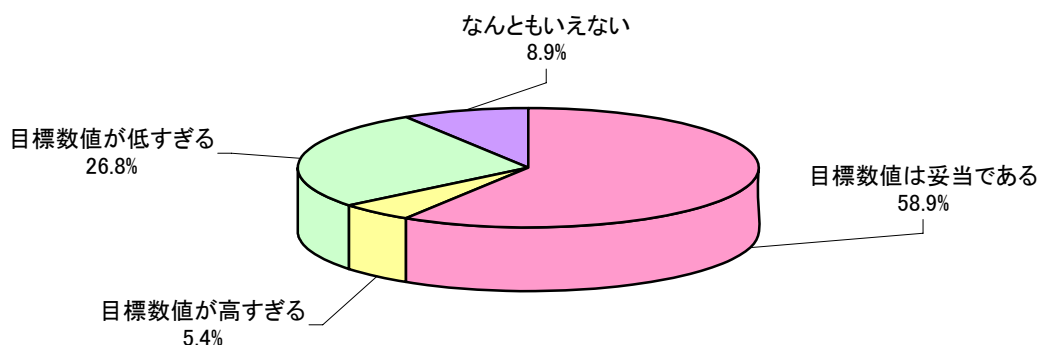
自転車駐車場の整備に計画的に取り組んだ結果、現在27,503台収容できる駐車場を確保し、駅前の自転車放置台数は、着実に減少しています。地域の方々が担い手である放置防止協力員による啓発活動も大きな要因となっていると考えられます。さらに鉄道事業者による自転車駐車場の設置や用地提供を求め、現在3,222台分の民営駐輪場が鉄道事業者等により運営されています。

平成10年度に策定した「杉並区自転車利用総合計画」を平成21年度に改定します。この計画に基づいて、区民、事業者、区が一体となって、放置自転車対策、自転車マナーの向上などの目標を着実に達成して、安全で快適な自転車のまちづくりを実現していきます。自転車駐車場については、駐車場未整備の駅周辺を重点的に整備します。一方で、区主導から民間主導による駐車場整備へとシフトしていきます。

問9から問13までは、資料1「自転車問題の解決」をご覧のうえ、お答えください。
 設問9 「1.目標」について、どう思いますか。

N = 56

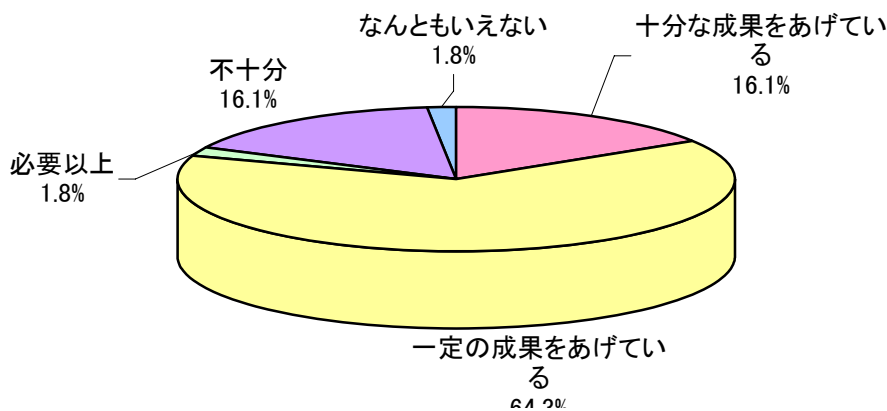
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	数	割合	男性	女性				
① 目標数値は妥当である	33	58.9%	男性	21		12	4	5
			女性	12	3	6	2	1
② 目標数値が高すぎる	3	5.4%	男性	2	1		1	
			女性	1		1		
③ 目標数値が低すぎる	15	26.8%	男性	11		7	3	1
			女性	4		3	1	
④ 目標に適さない	0	0.0%	男性	0				
			女性	0				
⑤ なんともしえない	5	8.9%	男性	2		1	1	
			女性	3		2	1	



設問10 資料1「自転車問題の解決」の「2.成果」について、どう思いますか。

N = 56

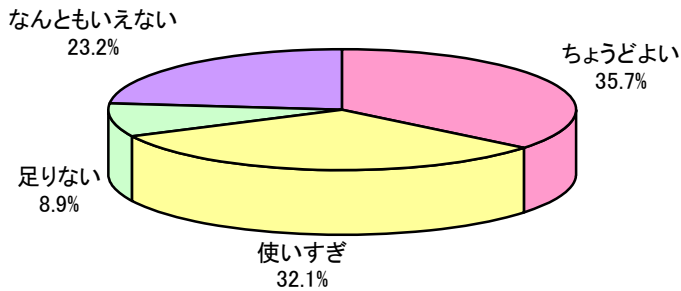
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	数	割合	男性	女性				
① 十分な成果をあげている	9	16.1%	男性	6	1	3	2	
			女性	3	2	1		
② 一定の成果をあげている (もう少し)	36	64.3%	男性	19		10	4	5
			女性	17	1	11	4	1
③ 必要以上(やりすぎ)	1	1.8%	男性	1		1		
			女性	0				
④ 不十分	9	16.1%	男性	9		5	3	1
			女性	0				
⑤ なんともしえない	1	1.8%	男性	1		1		
			女性	0				



設問11 資料1「自転車問題の解決」の「3.かかった経費」について、どう思いますか。

N = 56

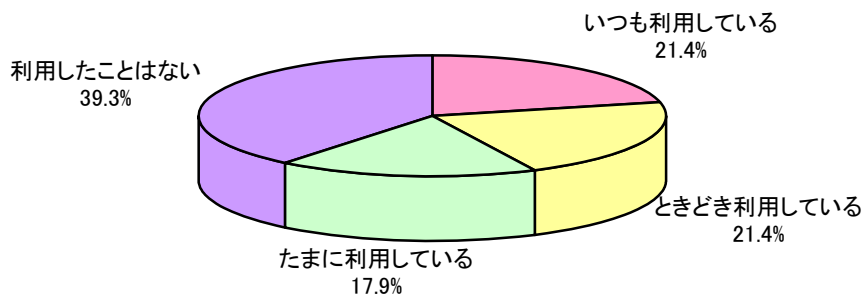
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① ちょうどよい	20	35.7%	男性	10		6	3	1
			女性	10	2	7	1	
② 使いすぎ	18	32.1%	男性	16	1	7	4	4
			女性	2		2		
③ 足りない	5	8.9%	男性	4		3	1	
			女性	1		1		
④ なんともいえない	13	23.2%	男性	6		4	1	1
			女性	7	1	2	3	1



設問12 自転車駐車を利用したことがありますか。

N = 56

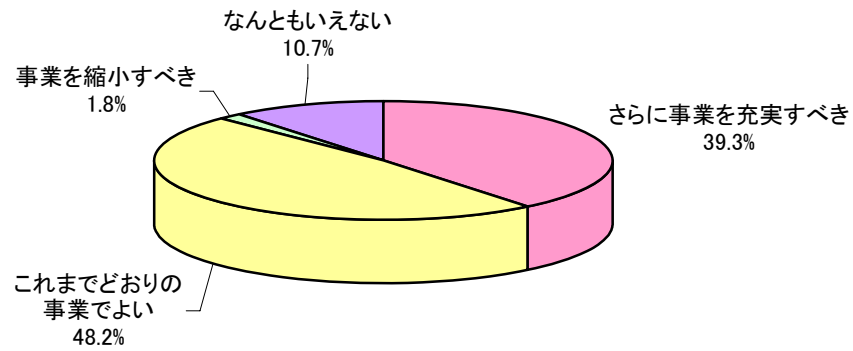
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① いつも利用している	12	21.4%	男性	5		4		1
			女性	7		6	1	
② ときどき利用している	12	21.4%	男性	8		3	3	2
			女性	4		3	1	
③ たまに利用している	10	17.9%	男性	8		4	3	1
			女性	2	2			
④ 利用したことはない	22	39.3%	男性	15	1	9	3	2
			女性	7	1	3	2	1



設問13 資料1「自転車問題の解決」の「5.自己評価」にある方向性について、どう思いますか。

N= 56

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① さらに事業を充実すべき	22	39.3%	男性	16		11	5	
			女性	6	1	4	1	
② これまでどおりの事業でよい	27	48.2%	男性	15	1	7	2	5
			女性	12	2	7	2	1
③ 事業を縮小すべき	1	1.8%	男性	1		1		
			女性	0				
④ なんともいえない	6	10.7%	男性	4		1	2	1
			女性	2		1	1	



No.2 ごみの発生抑制及びリサイクルの推進

目的と概要

区では、平成20年3月に策定した一般廃棄物処理基本計画の実現に向け、短期目標として平成22年度には家庭ごみを一人1日あたり430グラム（平成18年度649グラム）にするとともに、ごみの分別を徹底しリサイクル率を45%（平成18年度20.7%）にする、という高い目標を掲げました。

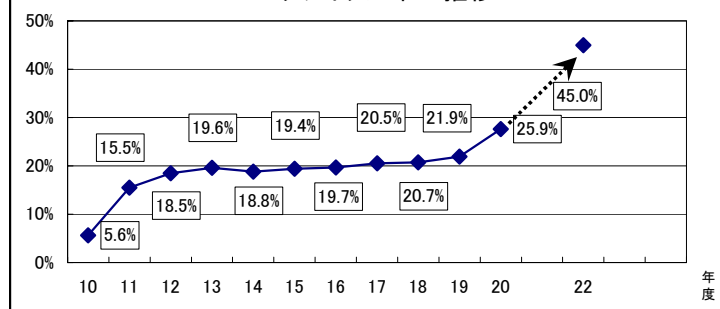
ごみの減量とリサイクル率の向上に向け、区民・事業者・区が協働してごみの発生抑制や再使用、再生利用を推進していきます。また区は、そのための具体的な仕組みづくりを行っていきます。

1 目標

リサイクル率を平成22年度に45%にします

2 成果

リサイクル率の推移



リサイクル率とは、排出されるごみ量に占める、古紙やびん・缶、ペットボトル、プラスチック製容器包装が資源物として排出されている割合です。

杉並区のごみ量は、平成2年度以降減少傾向にあります。しかし今後、東京23区では、新たな最終処分場の確保することは困難な状況です。ごみ問題の解決は依然として大きな課題であり、より一層のごみの減量、リサイクルの推進が求められています。

杉並区のリサイクル率は、23区の中では4番目の順位です。23区平均よりも高い割合で、区民のリサイクルに対する意識の高さが数値として現れています。

23区リサイクル率の比較【東京二十三区清掃一部事務組合資料】（H20年度）



3 かかった経費

平成20年度の「ごみの発生抑制及びリサイクルの推進」にかかった費用は、人件費と事業費を合わせ、約25億7千万円でした。

事業に占める人件費の比率は、18年度13.6%、19年度17.4%、20年度12.6%、となっております。

リサイクル率は着実に伸びて、17年度には20%を超えました。今後も、コストを抑制しながらリサイクルを推進します。

区民一人あたりの額

この事業 4,785円
区の全ての事業 41万2千円

4 事業

<20年度に実施した主な事業>

番号	事業名（活動指標）	数量	内容
1	資源の回収（区の回収、集団回収）を実施しました。	38,853 t	資源回収量は平成19年度に比べ、14.8%増加しました。
2	レジ袋有料化等の取組の推進に関する条例を制定しました。	-	コンビニエンスストアにレジ袋不要カードを置く等の取組を行いました。
3	プラスチック製容器包装のリサイクルを進めました。	4,819 t	プラスチック製容器包装の回収を区内全域で実施しました。

5 自己評価

<これまでの取組>

平成20年度は、プラスチックのサーマルリサイクルの実施にあわせ、プラスチック製容器包装とペットボトルの区全域での集積所回収を開始しました。この結果、不燃ごみの大半を占めるプラスチックの資源化によるごみの減量とリサイクル率の向上を図りました。これらの事業を通して、リサイクル率の目標達成に向けた基盤整備ができました。

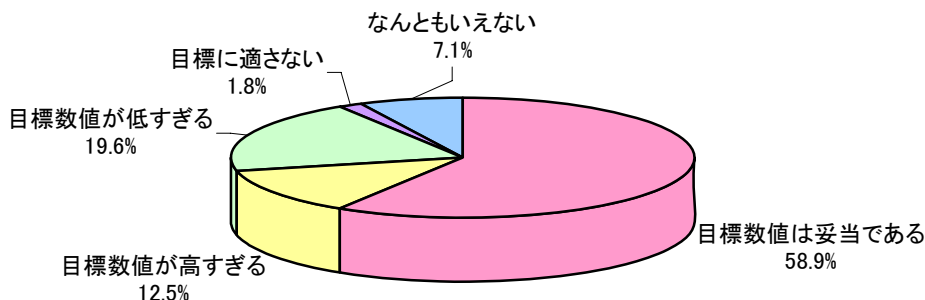
<今後の方向性> 【拡充】

「ごみを限りなくゼロにする社会」の構築を目指すため、家庭ごみの有料化とその前提となる戸別収集の導入を検討するとともに、環境施策のひとつの象徴としてのレジ袋削減目標の達成に向けて、ごみの発生自体を抑制できるように、区民・事業者と協働しながら、普及・啓発に努めていきます。

問14から問18までは、資料2「ごみの発生抑制及びリサイクルの推進」をご覧のうえ、お答えください。
 設問14 「1.目標」について、どう思いますか。

N = 56

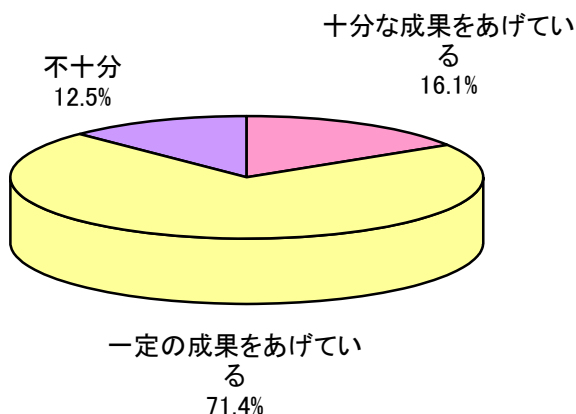
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 目標数値は妥当である	33	58.9%	男性	19	1	7	6	5
			女性	14	1	9	3	1
② 目標数値が高すぎる	7	12.5%	男性	5		5		
			女性	2		2		
③ 目標数値が低すぎる	11	19.6%	男性	9		7	1	1
			女性	2		1	1	
④ 目標に適さない	1	1.8%	男性	0				
			女性	1	1			
⑤ なんともいえない	4	7.1%	男性	3		1	2	
			女性	1	1			



設問15 資料2の「2.成果」について、どう思いますか。

N = 56

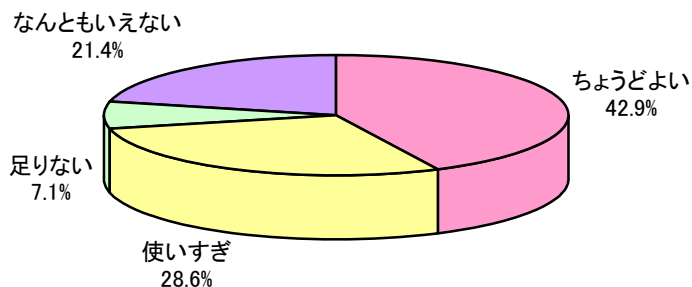
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 十分な成果をあげている	9	16.1%	男性	5		3	1	1
			女性	4		3	1	
② 一定の成果をあげている (もう少し)	40	71.4%	男性	26	1	12	8	5
			女性	14	3	7	3	1
③ 必要以上(やりすぎ)	0	0.0%	男性	0				
			女性	0				
④ 不十分	7	12.5%	男性	5		5		
			女性	2		2		
⑤ なんともいえない	0	0.0%	男性	0				
			女性	0				



設問16 資料2の「3.かかった経費」について、どう思いますか。

N= 56

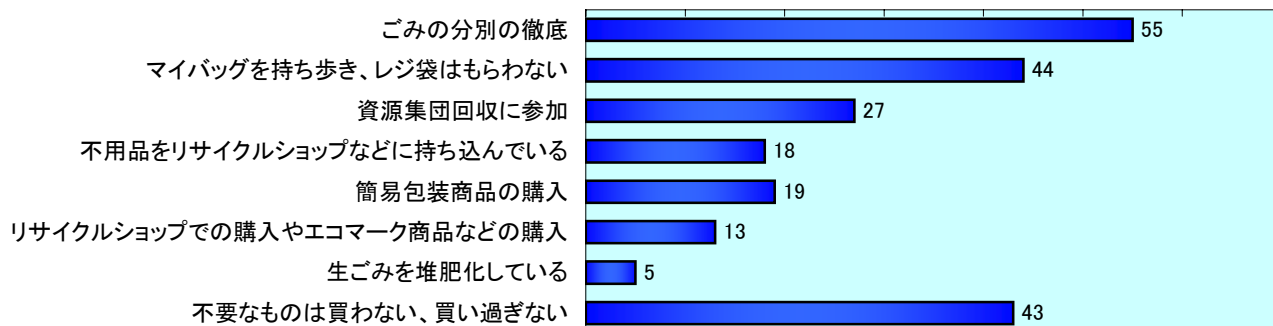
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① ちょうどよい	24	42.9%	男性	13		7	3	3
			女性	11	1	7	2	1
② 使いすぎ	16	28.6%	男性	13	1	7	4	1
			女性	3	1	1	1	
③ 足りない	4	7.1%	男性	3		3		
			女性	1		1		
④ なんともしえない	12	21.4%	男性	7		3	2	2
			女性	5	1	3	1	



設問17 ごみの発生抑制やリサイクルに関連して、あなたが取り組んでいるものはどれですか。該当するもの全てを選択してください。

N= 56

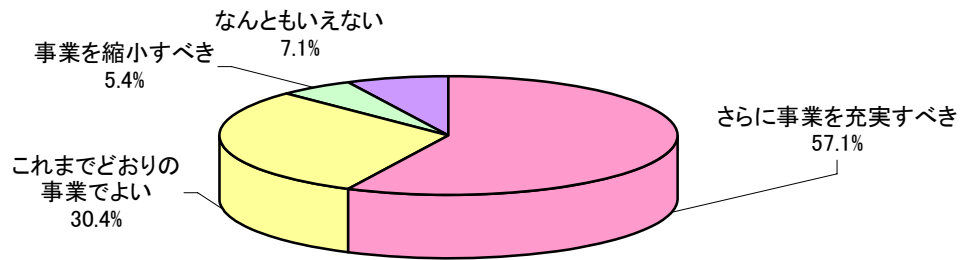
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① ごみの分別の徹底 (可燃・不燃・資源)	55	98.2%	男性	36	1	20	9	6
			女性	19	3	12	4	
② マイバッグを持ち歩き、レジ袋はもらわない	44	78.6%	男性	29	1	13	9	6
			女性	15	2	9	4	
③ 資源(缶・ビン・古紙)集団回収に参加	27	48.2%	男性	14		7	6	1
			女性	13	3	8	2	
④ 不用品をリサイクルショップなどにも持ち込んでいる	18	32.1%	男性	10		6	3	1
			女性	8		6	2	
⑤ 簡易包装商品の購入	19	33.9%	男性	10	1	4	4	1
			女性	9		5	4	
⑥ リサイクルショップでの購入やエコマーク商品などの購入	13	23.2%	男性	8		4	4	
			女性	5		4	1	
⑦ 生ごみを堆肥化している	5	8.9%	男性	1			1	
			女性	4		2	2	
⑧ 不要なものは買わない、買い過ぎない	43	76.8%	男性	26	1	14	7	4
			女性	17	3	10	4	



設問18 資料2の「5.自己評価」にある方向性について、どう思いますか。

N = 56

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① さらに事業を充実すべき	32	57.1%	男性	22		12	6	4
			女性	10	1	5	3	1
② これまでどおりの事業でよい	17	30.4%	男性	10	1	6	1	2
			女性	7	1	5	1	
③ 事業を縮小すべき	3	5.4%	男性	2		2		
			女性	1		1		
④ なんともいえない	4	7.1%	男性	2			2	
			女性	2	1	1		



No.3 保育の充実

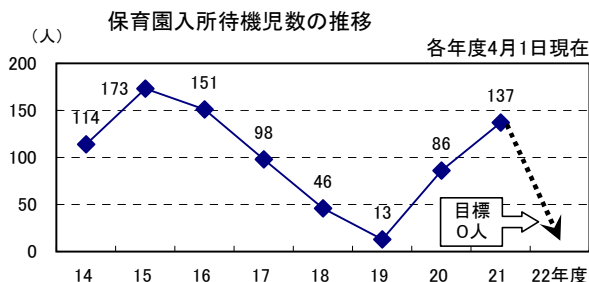
目的と概要

経済状況の変化や就労形態の多様化に伴い、保育需要は増大しています。特に21年4月の認可保育園への入園申込者は大幅に増加しました。区では子育てと就労の両立を支援するため、区立保育園の改築に伴う定員拡大や認証保育所の拡充等の対策を行ってまいりましたが、急増した保育需要に緊急対応するため、区独自の保育室の整備等により入所待機児の解消をめざします。併せて、延長保育、産休明け保育、病児・病後児保育など保護者の多様な保育ニーズに応じたサービスを提供するとともに、在籍している乳幼児の健全な心身の発達を図るための支援を行います。

1 目標

保育園入所待機児を平成22年度に解消します

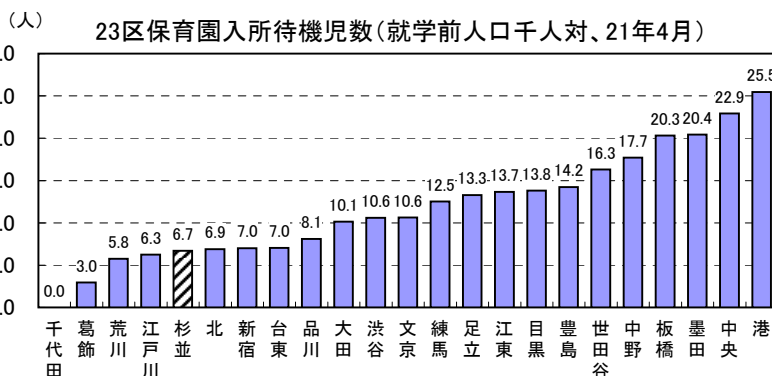
2 成果



深刻化する不況などの影響により保育需要が急増し、認可保育園の21年4月の入園申込みが前年比3割増と大幅に増加しました。

急激に増加した保育需要に応えるため、認証保育所3所の整備計画の前倒し、区独自の保育室9所の緊急整備、家庭福祉員の充実など、待機児解消に向けた当面の緊急対策を21年度中に進めていきます。

21年4月の待機児数は、前年の86人から137人に増加しました。この増加傾向は23区全体でもみられ、23区全体の待機児数は、20年4月の3,016人から21年4月は4,613人と大幅に増加しています。また、待機児数を子どもの人口の比率で見ると、21年4月時点で千人あたり6.7人と、23区中、5番目に少ない数となっています。



3 かかった経費

20年度に公立私立あわせて5,139人の保育園児の保育や、認証保育所の運営、区独自の保育室の緊急整備などにかかった費用は、約12.7億円でした。このうち人件費は約7.4億円、事業費は約5.3億円となっています。また、歳入としては、保育料1.2億3千万円、国・都からの補助金5億9千万円などでした。

区民一人あたりの額

この事業 23,658円
区全ての事業 41万2千円

4 事業

<20年度に実施した主な事業>

番号	事業名(活動指標)	数量	内容
1	高円寺南保育園の改築を行いました	1所	高円寺南保育園の改築工事が完了し、21年度から30名の定員増を図ります。
2	区独自の保育室の整備を開始しました	9所	急増した入園申込みに対応するための緊急対策として、21年度中の開設に向けた整備を進めました。
3	認証保育所の開設準備を行いました	3所	整備計画を前倒しして21年度中に開所するため、設置場所や事業者選定などの準備を行いました。

5 自己評価

<これまでの取組>

- 18年度から20年度までの取組は次のとおりです。
- ・公立私立保育園の定員を5,070人から5,139人に増やしました。
 - ・認証保育所を3所開設しました。
 - ・区立保育園の公設民営化を2園実施しました。
 - ・延長保育を実施する園を12園拡充しました。
 - ・病児保育事業を開始しました。
 - ・区保育室の整備など待機児解消の緊急対策を行いました。

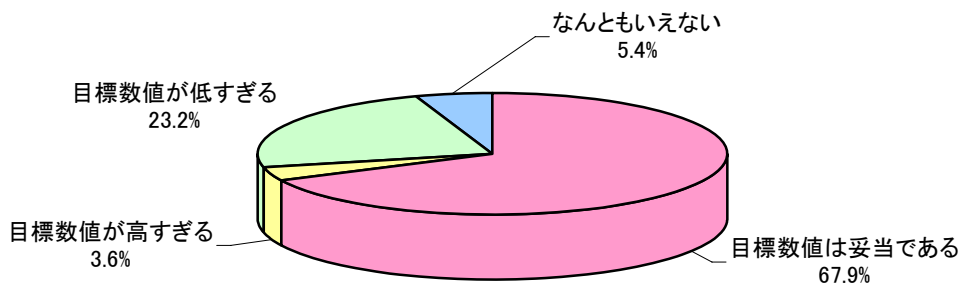
<今後の方向性> 【拡充】

働きながら子育てできる環境を整えるため、引き続き保育園入所待機児の解消を目指すとともに、保護者のライフスタイルに合わせた多様な保育ニーズに応える取組を推進していきます。民間活力の導入により、効率化を図っていきます。

問19から問23までは、資料3「保育の充実」をご覧のうえ、お答えください。
設問19 「1.目標」について、どう思いますか。

N = 56

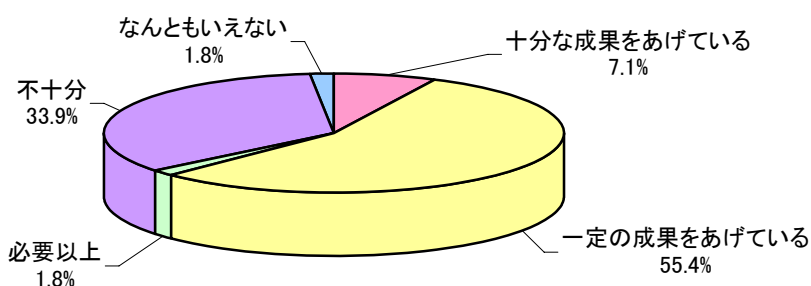
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	数	割合	男性	女性				
① 目標数値は妥当である	38	67.9%	男性	23		12	5	6
			女性	15	3	8	3	1
② 目標数値が高すぎる	2	3.6%	男性	1		1		
			女性	1		1		
③ 目標数値が低すぎる	13	23.2%	男性	9	1	5	3	
			女性	4		3	1	
④ 目標に適さない	0	0.0%	男性	0				
			女性	0				
⑤ なんともいえない	3	5.4%	男性	3		2	1	
			女性	0				



設問20 資料3の「2.成果」について、どう思いますか。

N = 56

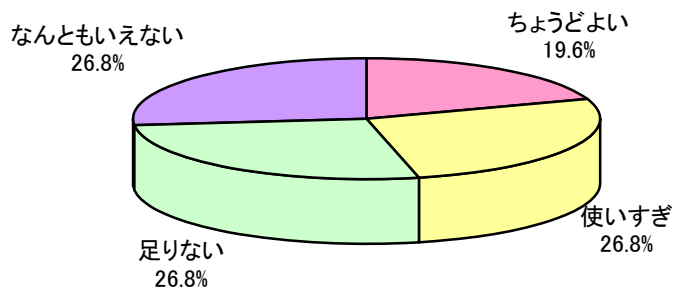
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	数	割合	男性	女性				
① 十分な成果をあげている	4	7.1%	男性	1			1	
			女性	3		2		1
② 一定の成果をあげている (もう少し)	31	55.4%	男性	21		10	6	5
			女性	10		6	4	
③ 必要以上(やりすぎ)	1	1.8%	男性	1				1
			女性	0				
④ 不十分	19	33.9%	男性	12	1	9	2	
			女性	7	3	4		
⑤ なんともいえない	1	1.8%	男性	1		1		
			女性	0				



設問21 資料3の「3.かかった経費」について、どう思いますか。

N = 56

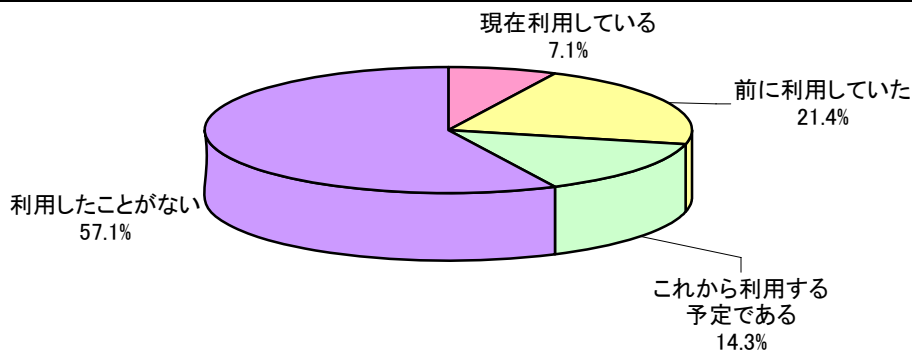
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① ちょうどよい	11	19.6%	男性	8		2	3	3
			女性	3		2	1	
② 使いすぎ	15	26.8%	男性	12		7	4	1
			女性	3	1	1		1
③ 足りない	15	26.8%	男性	10	1	6	2	1
			女性	5		5		
④ なんともいえない	15	26.8%	男性	6		5		1
			女性	9	2	4	3	



設問22 あなた、またはあなたのご家族は保育園を利用していますか。

N = 56

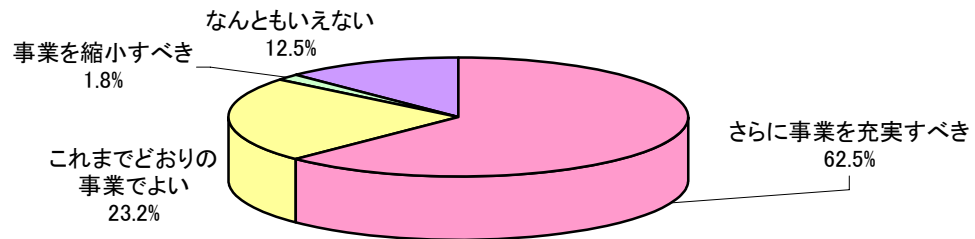
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 現在利用している	4	7.1%	男性	1		1		
			女性	3		3		
② 前に利用していた	12	21.4%	男性	9		4	3	2
			女性	3		3		
③ これから利用する予定である	8	14.3%	男性	4		4		
			女性	4	2	2		
④ 利用したことがない (利用する予定もない)	32	57.1%	男性	22	1	11	6	4
			女性	10	1	4	4	1



設問23 資料3の「5.自己評価」にある方向性について、どう思いますか。

N= 56

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① さらに事業を充実すべき	35	62.5%	男性	21	1	11	5	4
			女性	14	3	7	3	1
② これまでどおりの事業でよい	13	23.2%	男性	8		5	2	1
			女性	5		4	1	
③ 事業を縮小すべき	1	1.8%	男性	1		1		
			女性	0				
④ なんともいえない	7	12.5%	男性	6		3	2	1
			女性	1		1		



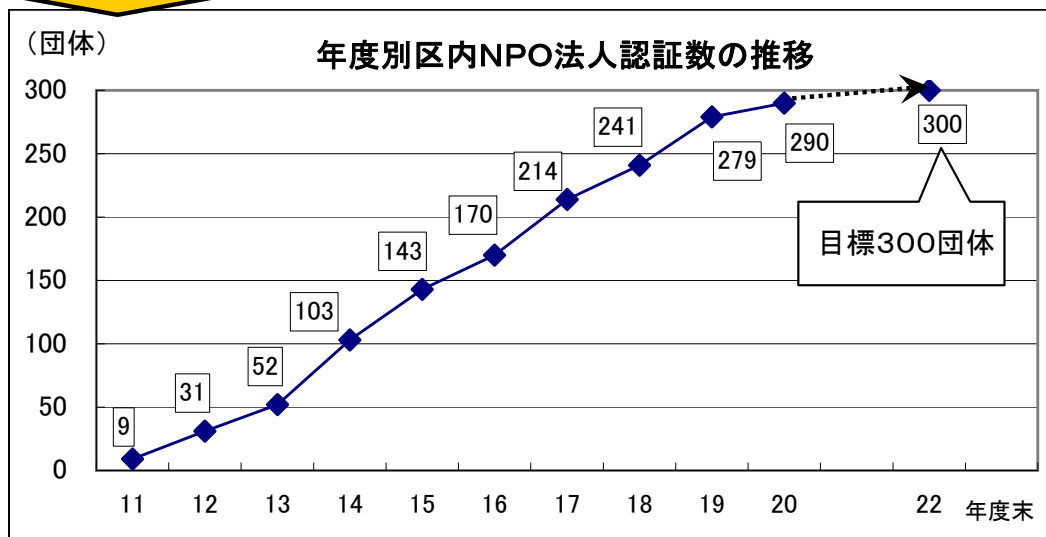
目的と概要

区内では、環境、福祉、教育など多くの分野で公共サービスの創造を得意とするNPO・市民活動団体によって、住民が必要とするサービスを住民自らの手で提供していく活動が広がっています。行政の業務もNPO等と協働することで、より住民ニーズに沿った公共サービスを提供することが可能となりました。今後、団塊の世代の方々を中心に、様々な知識や経験、能力を持った区民の方がより一層地域活動に参加し活躍することが予想されます。
NPO等が質の高い公共サービスを担うための人材育成やNPO等の地域活動への新規参入に対する支援の強化を図り、活動しやすい環境の整備と区・NPO等との協働を推進し、豊かで活力ある地域社会を築きます。

1 目標

区内で活動しているNPO法人認証団体を平成22年度までに300団体に増やします

2 成果

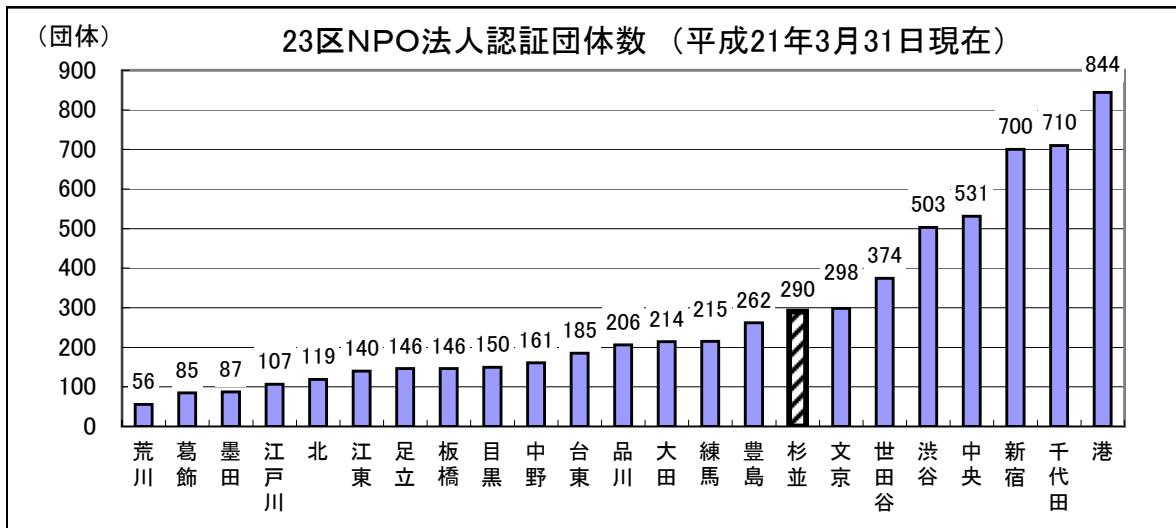


区内NPO法人認証数とは、杉並区内に主たる事務所を持ち、内閣府もしくは東京都の認証を受けている法人の数をいいます。「特定非営利活動法人(NPO法人)」として法人格を付与する「特定非営利活動促進法」は、平成10年12月1日に施行されました。

杉並区では平成11年度末の区内NPO法人はわずか9団体でしたが、その後、年々増加しています。その増加率は、平成11年度末の法人数と比較すると32倍となっており、全国の22倍、東京都の16倍に比べ、大変高くなっています。

NPO法人の認証団体数を23区と比較すると、杉並区は8番目に位置しています。

団体の活動分野としては、17分野のうち、保健・医療・福祉の増進、社会教育の推進を図る分野での活動が多くなっています。



3 かけた経費

20年度にこの事業にかかった費用は、人件費と事業費を合わせて、約1億2千6百万円でした。事業費としては、すぎなみNPO支援センターの維持運営経費3千万円、すぎなみ地域大学運営費2千7百万円でした。また、歳入としては、NPO支援基金への寄附金が190万円の前年と比べて35万円の減となりました。

区民一人あたりの額

この事業 235円
区の全ての事業 41万2千円

4 事業

<20年度に実施した主な事業>

番号	事業名(活動指標)	数量	内容
1	NPO支援基金の普及啓発を行い寄附を募りました	1,943千円	区内で活動している団体へ活動資金を助成するために、基金の普及啓発と募金活動を区内で行われるイベントで行いました。
2	NPO団体等からの相談を受付けました	2,612件	NPO設立の手続き・NPOの事業運営等活動に関する様々な相談を受付けました。
3	担い手の育成に取り組みました(講座受講者数)	918名	講座開講数を昨年度24講座から今年度は31講座とし、多様な協働事業の担い手の育成に取り組みました。

5 自己評価

<これまでの取組>

14年度に開設した「NPO・ボランティア活動推進センター」は、中間支援組織として機能拡充を図るため18年4月に「すぎなみNPO支援センター」に改組し、相談業務やNPOの組織運営に関する講座の開催等、NPO等の組織活動支援を行っています。また、ボランティア活動については、社会福祉協議会がこれまでの実績を生かして「杉並ボランティア・地域福祉推進センター」で引き続き支援を行っています。

地域活動に必要な知識・技術を学び、仲間を助け、自らが地域社会に貢献するための仕組みとして18年度に開校した「すぎなみ地域大学」は、講座数を当初の12講座から20年度には31講座まで拡充し、講座の構想段階から受講後の活動段階まで事業所管課と連携して、より多くの公共の担い手の育成に取り組んでいます。

すぎなみNPO支援センターとすぎなみ地域大学の連携を進めることで、多様な働き手や組織が活動しやすい環境の向上に寄与しています。

<今後の方向性>

【統廃合】

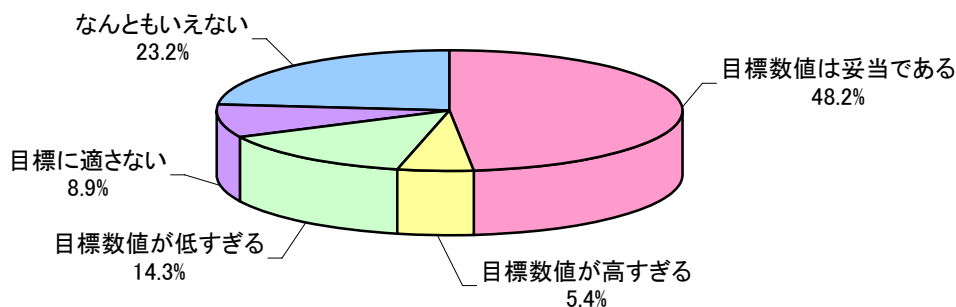
NPO・ボランティアなどが活動しやすい環境の整備のため、NPO等活動推進協議会に「NPO等活動支援のあり方検討部会」を設置し、より効果的な支援策の検討を行ってきました。

この検討結果を受け、NPO等がより質の高い公共サービスを担っていくため、すぎなみNPO支援センター・地域課・すぎなみ地域大学の再構築を検討します。また、NPO活動の財政基盤のひとつである杉並区NPO支援基金について他の所管課と共同で寄附文化の醸成に向けた取組を進めていきます。

問24から問28は、資料4「NPO・ボランティアなどが活動しやすい環境整備」をご覧のうえ、お答えください。
設問24 「1.目標」について、どう思いますか。

N = 56

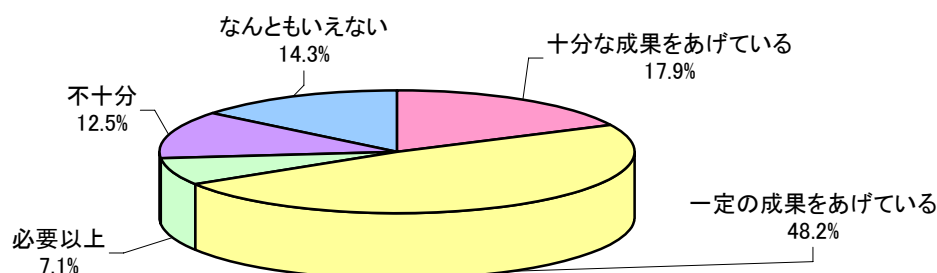
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 目標数値は妥当である	27	48.2%	男性	16		6	5	5
			女性	11	1	6	4	
② 目標数値が高すぎる	3	5.4%	男性	2		2		
			女性	1		1		
③ 目標数値が低すぎる	8	14.3%	男性	7		5	2	
			女性	1		1		
④ 目標に適さない	5	8.9%	男性	5	1	4		
			女性	0				
⑤ なんともいえない	13	23.2%	男性	6		3	2	1
			女性	7	2	4		1



設問25 資料4の「2.成果」について、どう思いますか。

N = 56

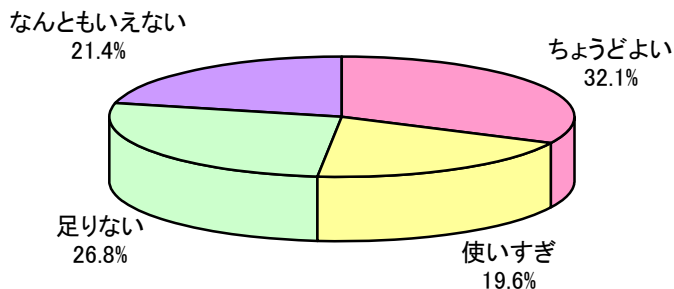
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 十分な成果をあげている	10	17.9%	男性	4		2		2
			女性	6	2	3	1	
② 一定の成果をあげている (もう少し)	27	48.2%	男性	19		9	7	3
			女性	8		5	3	
③ 必要以上(やりすぎ)	4	7.1%	男性	4	1	3		
			女性	0				
④ 不十分	7	12.5%	男性	7		5	2	
			女性	0				
⑤ なんともいえない	8	14.3%	男性	2		1		1
			女性	6	1	4		1



設問26 資料4の「3.かかった経費」について、どう思いますか。

N= 56

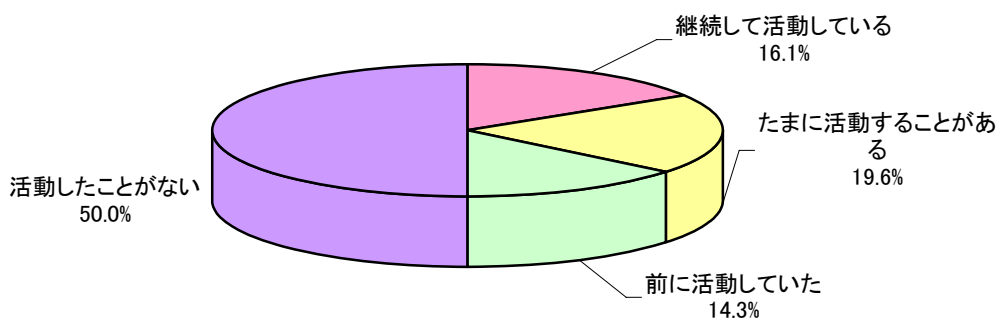
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① ちょうどよい	18	32.1%	男性	12		5	6	1
			女性	6	2	4		
② 使いすぎ	11	19.6%	男性	8	1	4	1	2
			女性	3		3		
③ 足りない	15	26.8%	男性	12		9	1	2
			女性	3		2		1
④ なんともいえない	12	21.4%	男性	4		2	1	1
			女性	8	1	3	4	



設問27 ボランティアや地域の団体の活動をしていますか。

N= 56

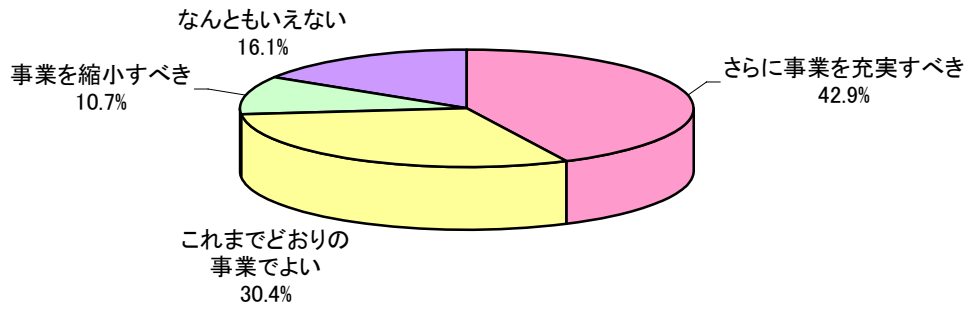
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 継続して活動している	9	16.1%	男性	5		3	1	1
			女性	4		2	1	1
② たまに活動することがある	11	19.6%	男性	8		6	1	1
			女性	3		2	1	
③ 前に活動していた	8	14.3%	男性	5		1	2	2
			女性	3	1	1	1	
④ 活動したことがない	28	50.0%	男性	18	1	10	5	2
			女性	10	2	7	1	



設問28 資料4の「5.自己評価」にある方向性について、どう思いますか。

N = 56

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① さらに事業を充実すべき	24	42.9%	男性	17		11	4	2
			女性	7	1	4	1	1
② これまでどおりの事業でよい	17	30.4%	男性	8		3	2	3
			女性	9	2	5	2	
③ 事業を縮小すべき	6	10.7%	男性	5	1	4		
			女性	1		1		
④ なんともいえない	9	16.1%	男性	6		2	3	1
			女性	3		2	1	



No. 5 豊かな学校教育づくり

目的と概要

区立小中学校に通う児童・生徒が毎日の学校生活を楽しく過ごせるよう「学ぶ喜び」「遊ぶ喜び」「生きる喜び」に満ちた魅力ある豊かな学校づくりを推進し、創意工夫ある教育指導により児童・生徒の基礎学力や学習意欲の向上を図っていきます。

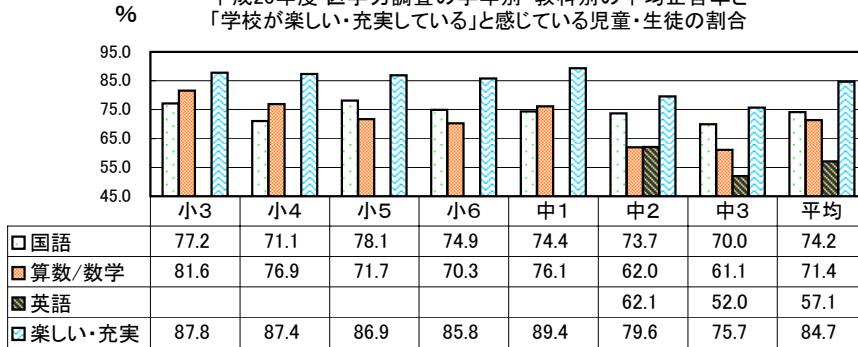
1 目標

平成22年度までに児童・生徒の学校生活が充実していると感じる割合を86%以上に

向上させます

2 成果

平成20年度 区学力調査の学年別・教科別の平均正答率と「学校が楽しい・充実している」と感じている児童・生徒の割合



正答率とは、区が実施した学力調査において、児童・生徒が各教科の問題に正解した割合を示しています。グラフ中の「平均」の項目は各学年の正答率を単純に平均した数値です。(児童・生徒単位の全科目平均値は68.6%、楽しい・充実していると感じる割合は84.3%です。)

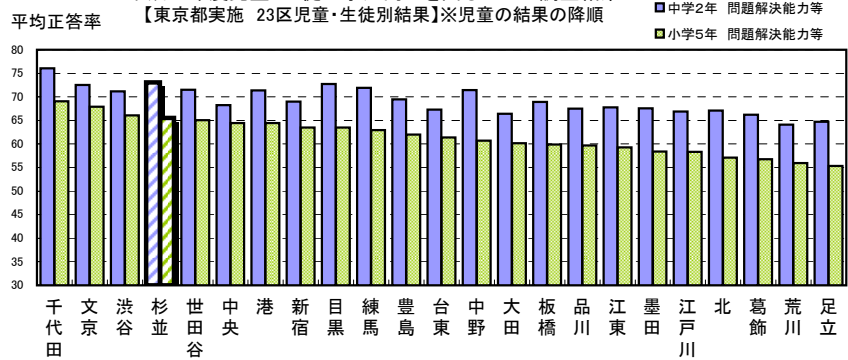
正答率の状況を見ると、小学校3年と小学校5年の「国語」、小学校3年・小学校4年・中学校1年の「算数・数学」が高く、中学校3年の「英語」が低い結果となっています。

また、「学校が楽しい・充実している」と感じている児童・生徒の割合については、中学校1年は90%近い値となっていますが、中学校2年と中学校3年では80%を下回る結果となっています。

東京都が実施した「平成20年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果における都全体(49区市)の平均正答率は、小学生(5年)が60.2%、中学生(2年)は69.2%でした。

杉並区の平均正答率は、小学生が65.6%で23区中4位、中学生は73.1%で23区中2位との結果となっています。

平成20年度児童・生徒の学力向上を図るための調査結果



3 かかった経費

この施策にかかった20年度の経費は、人件費と事業費とをあわせて約17億8百万円でした。主な事業費としては、校務システム(教職員一人一台パソコン)の導入等のための情報教育の推進事業として約4億5千9百万円支出したのをはじめ、校舎屋上緑化等のエコスクールの推進事業に約4億1百万円、区立小中学校の移動教室事業として約2億9百万円を支出しました。

なお、歳入としては、エコスクールの推進事業や中学校の移動教室事業等に対して、国・都からの交付金が約1億4千8百万円ありました。

区民一人あたりの額

この事業 3,176円
区の全ての事業 41万2千円

4 事業

<20年度に実施した主な事業>

番号	事業名(活動指標)	数量	内容
1	区独自の学力調査を実施しました	学力調査17,553人	小学校3年生以上の児童・生徒に実施した学力調査の正答率は、全科目平均で68.6%でした。
2	中学校で外国人による英語教育指導を実施しました	授業時間数 3,602時間	全中学校で、外国人の英語教育指導員が英語担当教員と連携して1クラスあたり19時間の授業を行いました。
3	エコスクール化を推進しました。	校庭芝生化 2校 校舎屋上緑化 6校	学校施設の緑化(校庭・屋上・壁面)、ピオトープの整備、エコスクール改修を行っています。

5 自己評価

<これまでの取組>

<今後の方向性> 【拡充】

東京都が実施した「平成20年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果では、小学生が23区中4位、中学生は23区中2位との結果となっており、「豊かな学校教育づくり」のための事業推進が児童・生徒の学力向上に結びついているものと考えられます。

区の調査による「学校が楽しい・充実している」と感じている割合は、全体では18年度(19年度は未実施)より3ポイント高くなっています。また、20年度の学校評価における教育委員会の施策に対する「保護者評価」の肯定率は85.0%でした。

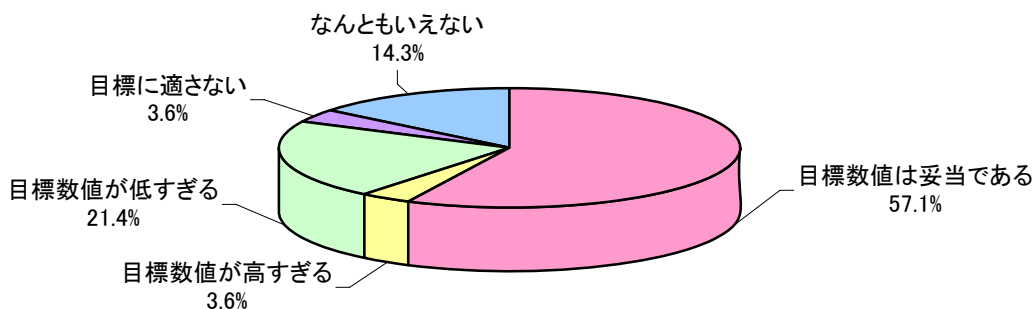
今後も、事業の効率化を図りつつ、各学校の活力ある学校運営や特色をもった教育活動に取組み、魅力ある「豊かな学校教育づくり」が実現できるよう、各事業を実施していく必要があると考えています。

一人ひとりの子どもが学ぶ喜び、生きる感動、かかわる尊さを実感できるよう、これまで「豊かな学校教育づくり」における各事業を推進してきました。今後、新学習指導要領の完全実施に向けた取り組みを充実させていくと共に、第三者診断の実施による経営支援、小中一貫教育の推進による魅力ある学校づくりをすすめ、一層、児童生徒や保護者から信頼され、自立と責任のある学校づくりを目指していきます。

問29から問33は、資料5「豊かな学校教育づくり」をご覧のうえ、お答えください。
 設問29 「1.目標」について、どう思いますか。

N = 56

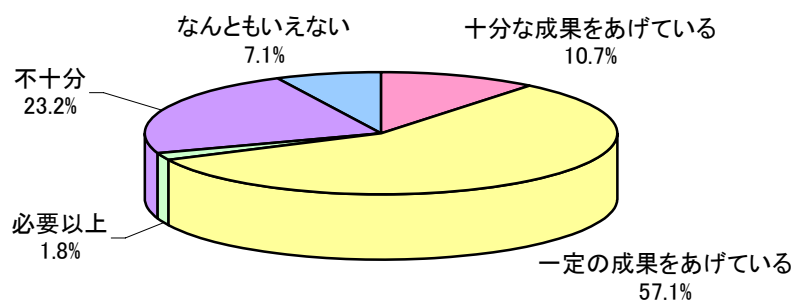
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	数	割合	男性	女性				
① 目標数値は妥当である	32	57.1%	男性	18		9	5	4
			女性	14	2	8	3	1
② 目標数値が高すぎる	2	3.6%	男性	1		1		
			女性	1	1			
③ 目標数値が低すぎる	12	21.4%	男性	9	1	5	2	1
			女性	3		3		
④ 目標に適さない	2	3.6%	男性	2		2		
			女性	0				
⑤ なんともいえない	8	14.3%	男性	6		3	2	1
			女性	2		1	1	



設問30 資料5の「2.成果」について、どのように思いますか。

N = 56

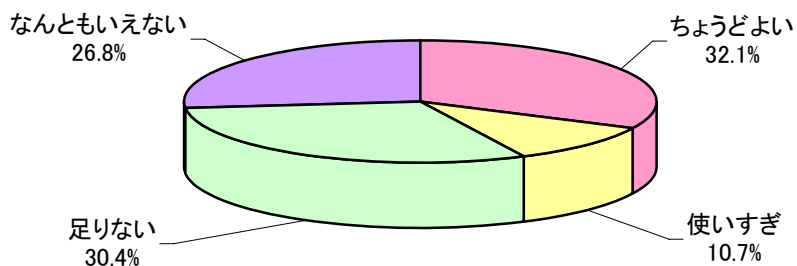
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	数	割合	男性	女性				
① 十分な成果をあげている	6	10.7%	男性	4		2	1	1
			女性	2		2		
② 一定の成果をあげている (もう少し)	32	57.1%	男性	17	1	7	5	4
			女性	15	3	7	4	1
③ 必要以上(やりすぎ)	1	1.8%	男性	0				
			女性	1		1		
④ 不十分	13	23.2%	男性	11		9	2	
			女性	2		2		
⑤ なんともいえない	4	7.1%	男性	4		2	1	1
			女性	0				



設問31 資料5の「3.かかった経費」について、どう思いますか。

N = 56

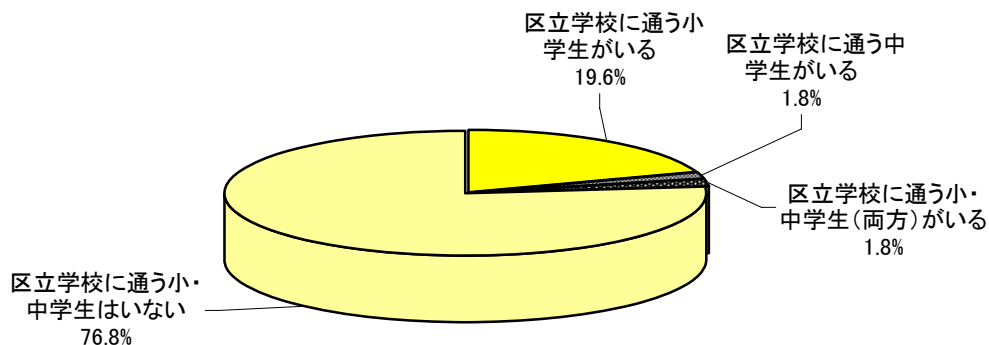
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① ちょうどよい	18	32.1%	男性	13		4	5	4
			女性	5	2	3		
② 使いすぎ	6	10.7%	男性	4		3	1	
			女性	2	1	1		
③ 足りない	17	30.4%	男性	11	1	8	2	
			女性	6		5		1
④ なんともしえない	15	26.8%	男性	8		5	1	2
			女性	7		3	4	



設問32 あなたのご家族についてお答えください。

N = 56

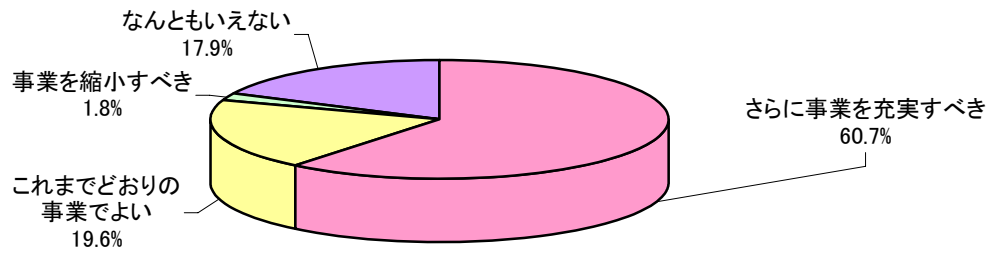
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 区立学校に通う小学生がいる	11	19.6%	男性	9		6	2	1
			女性	2		2		
② 区立学校に通う中学生がいる	1	1.8%	男性	1		1		
			女性	0				
③ 区立学校に通う小・中学生(両方)がいる	1	1.8%	男性	0			1	
			女性	1		1		
④ 区立学校に通う小・中学生はいない	43	76.8%	男性	26	1	13	7	5
			女性	17	3	9	4	1



設問33 資料5の「5.自己評価」にある方向性について、どう思いますか。

N= 56

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① さらに事業を充実すべき	34	60.7%	男性	19	1	12	3	3
			女性	15	1	10	3	1
② これまでどおりの事業でよい	11	19.6%	男性	8		3	3	2
			女性	3	2	1		
③ 事業を縮小すべき	1	1.8%	男性	0				
			女性	1		1		
④ なんともいえない	10	17.9%	男性	9		5	3	1
			女性	1			1	



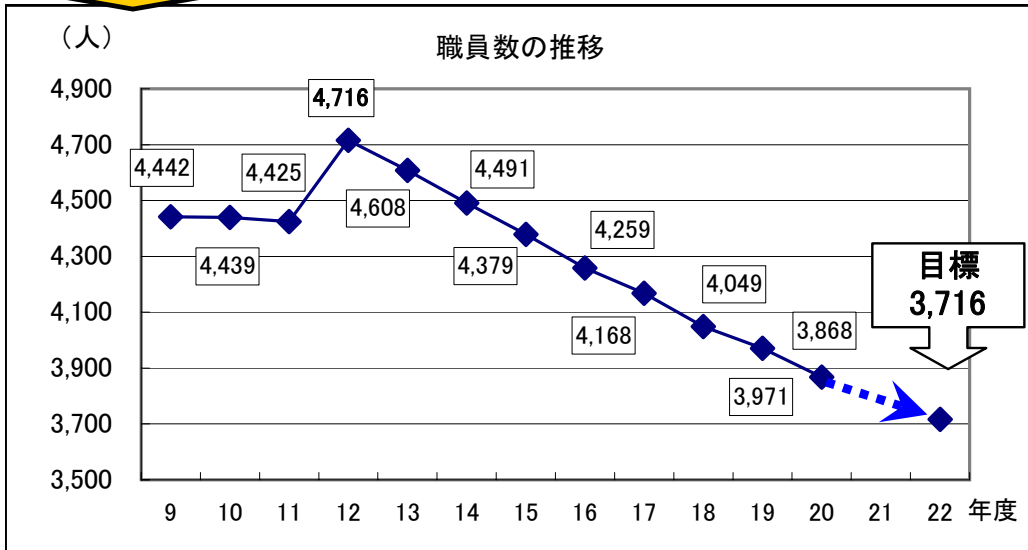
目的と概要

杉並区の将来像や目標を明らかにし、時代と社会の変化に機敏に対応しながら、効果的な政策形成を行います。質の高いサービスを効率的に継続して提供することができるよう、抜本的な区政の経営改革を推進し、「小さな区役所で五つ星のサービス」を実現します。

1 目標

職員定数を平成22年度までに1,000人削減します(12年度比)

2 成果

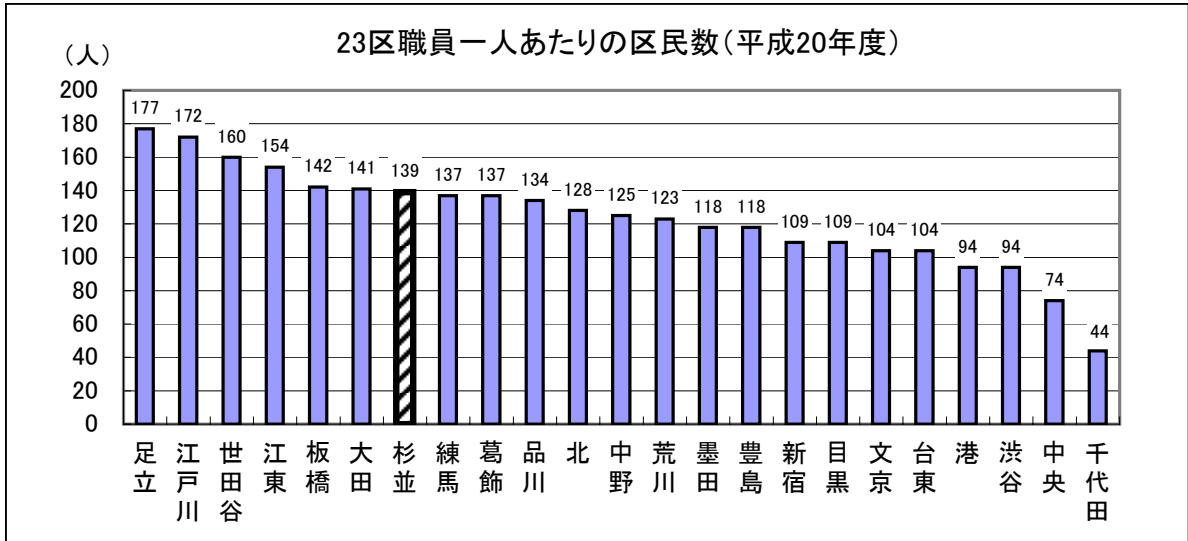


平成12年度に清掃事業が都から移管されたため、清掃職員が増加しています。その後、職員削減計画を着実に実施し、平成20年度までに848人の削減を行いました。今後、平成22年度までに、1000人削減の3716人を目指します(平成12年度比)。

また、杉並行政サービス民間事業化提案制度などを活用し、区が真に実施すべき仕事を明確化し、区民・NPO、民間企業等との協働、民営化や民間委託などを進めて、簡素で効率的な区政運営を実現します。

※区が行っているすべての事務事業を対象に、民間事業者からの提案を受け、審査の上、適切なものについては民間事業者が公共サービスを担うという制度です。

職員一人あたりの区民数の23区平均は123人です。杉並区は現在7番目の139人ですが、職員数を1000人削減した場合、145人となる見込みです。



3 かかった経費

20年度にこの事業にかかった費用は、人件費と事業費を合わせて、約9千万円でした。計画の策定や内部管理事務が主なため、人件費が約8割を占めています。

主な事業費として、民間事業化提案制度の実施に約220万円、行政評価に約150万円、杉並区減税自治体構想の検討に約115万円となっています。

区民一人あたりの額

この事業 167円
区全ての事業 41万2千円

4 事業

<20年度に実施した主な事業>

番号	事業名(活動指標)	数量	内容
1	杉並改革総点検を実施しました	—	平成22年度の区のあるべき姿「区民とつくる小さな区役所で、五つ星のサービス」の実現を目指し、過去10年間の行政改革の取組を検証し、改革の総仕上げに向けた課題(43項目)を明らかにしました。
2	杉並行政サービス民間事業化提案制度を実施しました	—	区の事業について企業やNPOから提案を募集し、これまでに10事業を採択しました。そのうち、20年度中に3事業の委託・協働が実現し、委託・協働が実現した事業は5事業となりました。その他の事業についても実施に向けた準備を進めています。
3	全ての事業を対象に行政評価を実施しました	606事業	すべての事業を根本的に見直し無駄を省くとともに、限られた予算の効率的執行のための基礎資料とします。

5 自己評価

<これまでの取組>

<今後の方向性>【サービス増】

スマートすぎなみ計画(行財政改革実施プラン)に基づき職員数の削減を進めるなど、行財政改革に取り組みました。効果額は、平成12~19年度で約306億円となっています。

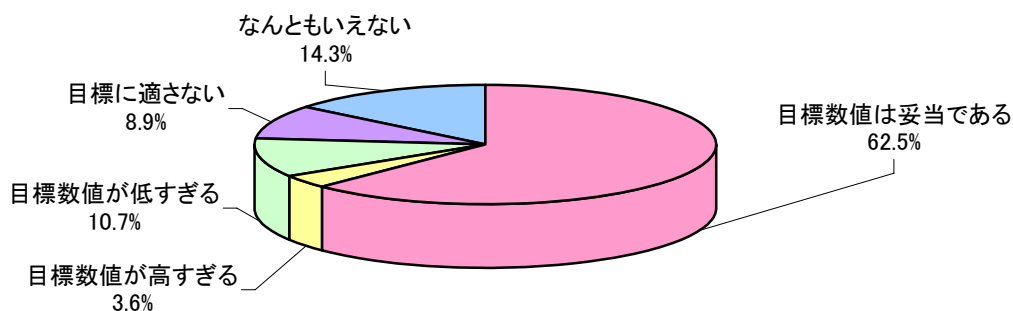
時代の変化に的確に対応しながら、柔軟でかつ効率的な政策経営に取り組むとともに、「めざせ五つ星の区役所運動」を実施し、区民満足度の向上に努めています。また、行政評価の実施により、事業の目標や取組方法を見直し、成果を明らかにすることで区政運営の効率化を図っています。

引き続き職員数の削減を進めていきます。また、区民・NPO等との協働分野の拡大を図り、平成22年度までに区の6割の事業を協働や民営化・民間委託で実施するとともに、履行の確認と業務の質の評価を行い、安全確保及び質の維持・向上に努めます。さらに、中長期的に安定的な財政運営が可能となる「減税自治体構想」の実現に向けて取り組んでいきます。

問34から問38は、資料6「創造的な政策形成と行政改革の推進」をご覧のうえ、お答えください。
設問34 「1.目標」について、どう思いますか。

N = 56

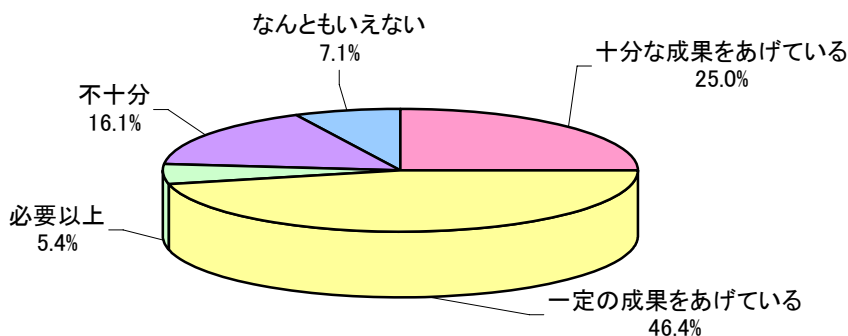
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 目標数値は妥当である	35	62.5%	男性	20		10	8	2
			女性	15	2	9	4	
② 目標数値が高すぎる	2	3.6%	男性	2	1	1		
			女性	0				
③ 目標数値が低すぎる	6	10.7%	男性	6		3		3
			女性	0				
④ 目標に適さない	5	8.9%	男性	5		4		1
			女性	0				
⑤ なんともいえない	8	14.3%	男性	3		2	1	
			女性	5	1	3		1



設問35 資料6の「2.成果」について、どう思いますか。

N = 56

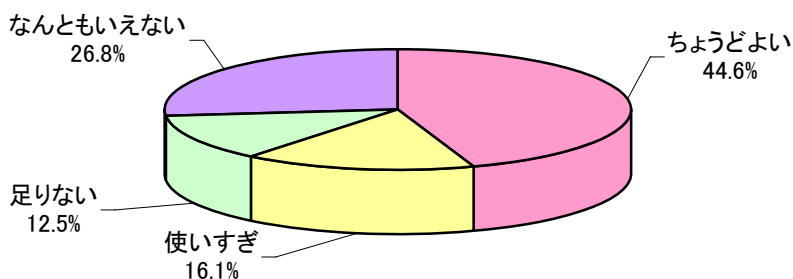
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 十分な成果をあげている	14	25.0%	男性	7	1	3	3	
			女性	7		7		
② 一定の成果をあげている (もう少し)	26	46.4%	男性	16		8	6	2
			女性	10	2	3	4	1
③ 必要以上(やりすぎ)	3	5.4%	男性	3		3		
			女性	0				
④ 不十分	9	16.1%	男性	7		3		4
			女性	2		2		
⑤ なんともいえない	4	7.1%	男性	3		3		
			女性	1	1			



設問36 資料6の「3.かかった経費」について、どう思いますか。

N = 56

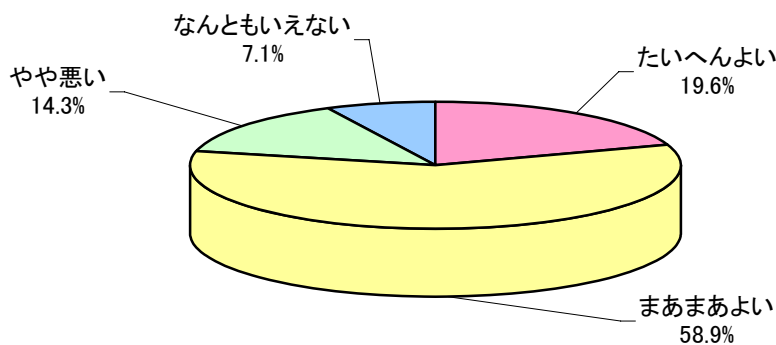
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① ちょうどよい	25	44.6%	男性	16	1	7	6	2
			女性	9	2	5	2	
② 使いすぎ	9	16.1%	男性	6		3	1	2
			女性	3		3		
③ 足りない	7	12.5%	男性	5		5		
			女性	2		2		
④ なんともいえない	15	26.8%	男性	9		5	2	2
			女性	6	1	2	2	1



設問37 区役所や区立施設での職員の対応について、どう思いますか。

N = 56

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① たいへんよい	11	19.6%	男性	9	1	4	4	
			女性	2		2		
② まあまあよい	33	58.9%	男性	22		13	5	4
			女性	11	2	4	4	1
③ やや悪い	8	14.3%	男性	4		2		2
			女性	4	1	3		
④ たいへん悪い	0	0.0%	男性	0				
			女性	0				
⑤ なんともいえない	4	7.1%	男性	1		1		
			女性	3		3		



設問38 資料6の「5.自己評価」にある方向性について、どう思いますか。

N = 56

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① さらに事業を充実すべき	26	46.4%	男性	17		8	5	4
			女性	9	2	4	2	1
② これまでどおりの事業でよい	22	39.3%	男性	13	1	9	2	1
			女性	9	1	6	2	
③ 事業を縮小すべき	4	7.1%	男性	2		2		
			女性	2		2		
④ なんともいえない	4	7.1%	男性	4		1	2	1
			女性	0				

